

棚田発！日本のこころプロジェクト

代表者 鈴木 芳 幸 （農学部応用生物科学科2年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、小豆島中山地区の伝統ある棚田の景観や棚田米の素晴らしさをより多くの香川大学生、香川県民に知ってもらうことを目的としています。小豆島中山地区の棚田は全国棚田百選に選ばれており、持続させるべき文化的景観として注目されています。しかし近年、耕作者の高齢化により耕作放棄地が増加しているため景観の保全が大きな課題となっています。SUIJI や昨年度の活動の中で、中山の人と関わり「私たちにも協力できることはないだろうか」と考えこのプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、自ら棚田での稲作に携わり、その経験や小豆島の良さを様々な人に伝えることで小豆島、中山地区の棚田保全と地域振興を目指しています。

2. 実施期間（実施日）

平成30年4月1日から 平成31年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、例年の活動を基に継続、発展させたものです。例年の活動としましては、お借りした棚田の一部での耕作活動に加え、水路掃除や農村歌舞伎、虫送りといった小豆島中山地区の事業にも参加しました。また、農学部の収穫祭においては、棚田で収穫した餅米を用いて作った餅と赤飯を来てくださった方に配布し、その際に中山の棚田について記載されたパンフレットを配布する活動を例年行っています。収穫祭では、訪れていただいた方を対象にアンケート調査を行い、その結果から課題点などを見つけ、翌年度の活動に結びつけられるようにしています。

今年度は例年の活動に加え、耕作放棄地の保全や地域の伝統文化の維持に焦点を当てた活動を行いました。我々は中山地区の棚田の景観保



全、また耕作放棄地の荒廃を防止することを目的に、耕作放棄地に放任栽培が可能なカボチャを植えました。これを行った結果として、耕作放棄地の有効利用や荒廃防止には寄与できましたが、交通機関の関係から学生が頻繁に訪れることが難しく、雑草の処理が十分に行うことができませんでした。来年度以降はこの結果を考慮して、より効果的で意義のある活動を行う必要があると我々は考えています。その他にも、中山地区の事業である棚田の一部を全国の一般の方々に貸し出す「棚田オーナー制度」の、進行の手伝いとオーナーの方の補助を行いました。また、我々は10月に行われる中山農村歌舞伎に役者として出演することや、舞台の準備などに参加することを通じて、地域の伝統文化の維持に貢献しました。以上のような活動を通じて地域の方々と、香川大学農学部との関係性を強めることができました。このことは、SUIJI-国内 SLP といった地域での活動を主とする授業を円滑に進める上で有効であると我々は考えています。



カボチャ定植の様子



農村歌舞伎準備の様子



農村歌舞伎本番の様子

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、地域社会の活性化に寄与できました。我々の活動によって地域の伝統文化である虫送り、中山農村歌舞伎、また中山の棚田について外部に PR することは、地域活性に繋がると考えています。PR の他にも我々は、全長 2km にも及ぶ棚田へと水を供給する水路の掃除や、先述したような伝統文化維持に関する活動を行うことで、高齢化に伴う地域の後継者不足に対する手助けとなっています。

このプロジェクトでは目標の一つとして、小豆島の方々の知恵と学生の行動力および発想力を互いの立場から交換することで、問題と改善策を明らかにし、持続可能な地域づくりを進めることを掲げていました。今年度、我々はカボチャの定植を主とした耕作放棄地の保全を目的とした活動を行うなかで、その目標に示されるような持続可能な地域づくりに貢献できたと考えています。



収穫祭や三木町でのイベントでの餅や赤飯、また棚田について記載されたパンフレットの配布を行うことで、農学部周辺から県外の方まで広い範囲の方々に関心を持って頂き、それに加え三木町と農学部生との繋がりの形成をすることができました。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクトの構成員は昨年度からの参加者を除いて多くは農業の未経験者であったため、中山地区の農家の方々から作業をご指導していただき、実体験として農業を学ぶことができました。中山の棚田では急斜面や狭い道があるため大規模な機械が使えず、場所によっては手作業や小型の機械を使い、棚田の伝統ある田植えや稲刈りの方法や大変な点などを学びました。また、こうした耕作作業は学校の授業などではなかなか体験できないため貴重な経験であったと感じます。すべての農作業の工程の意味や土壌と肥料について考えることもでき、授業で得た知識の理解が深まりました。

プロジェクトの活動では学生のみだけでなく地域の方々との連携も重要であり、次第に地域の現状が見られました。そのため、地域が抱える問題や課題が分かり、耕作放棄地の増加以外にも人口減少や空き家問題があることを知りました。これらの問題に対して、地域の方からの直接の話や意見から私たちに求められていることを考え、学生の立場からできることを広報等の形でできました。棚田の会として参加したイベントや収穫祭での活動は普段の学生生活ではできない経験でした。また、普段関わることのないような年代や多くの職種の方々と交流し、視野を広げることができたように思います。これらは今後の学生生活や就職活動においても役立つ経験です。



水路掃除の様子



田植えの様子



稲刈りの様子

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今年度の反省点として、いただいた予算 172,000 円のうち、活動により執行した額が 86,221 円であって、85,779 円という多額の返還額を出してしまった点が挙げられます。我々の活動では予算の大半を小豆島へ渡るためのフェリー代が占めており、活動への参加者が計画していたよりも少人数であったため、交通費が計画よりも少額となったことが、多額の返還額を出してしまった原因です。来年度以降は次の代への引き継ぎと活動における人数管理をよりの確に行うことで、同様の失敗を繰り返さないようにします。

今後の展望として、地域の方々との交流をさらに深めるなかで、水路掃除やオーナー制度ボランティアといった、地域の方々への貢献ができるような活動をさらに増やして

いきたいと考えています。また、来年度開催される瀬戸内国際芸術祭の作品が、中山地区でも造られるので、それに伴う準備や開催中における補助に関する活動も行っていきたくと考えています。

7. 実施メンバー

代表者	鈴木 芳幸 (農学部2年)		
副代表	中西 利樹 (農学部3年)		
	玉置 裕也 (農学部2年)		
構成員	坪井 昌宏 (農学部3年)	千葉 廉 (農学部3年)	
	友廣 祐介 (農学部3年)	稲毛 大賀 (農学部2年)	
	大槻 涼花 (農学部2年)	奥西 茉楠 (農学部2年)	
	四宮 仁 (農学部2年)	島村 祐成 (農学部2年)	
	白鯛 圭吾 (農学部2年)	関戸 智紀 (農学部2年)	
	古谷 仁紀 (農学部2年)	宮脇 大典 (農学部2年)	
	桑原 七実 (農学部1年)	杉田 碧唯 (農学部1年)	

8. 執行経費内訳書

配分予算額		172,000円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
交通費 虫送り火手作り	7	1,320	9,240	
交通費 中山農村歌舞伎の練習	-	-	23,620	学生3名で8日間の練習
交通費 オーナー制度	4	1,380	5,520	
交通費 稲刈り	6	1,320	6030	フェリー利用人数の都合により、単価と金額に差が生じる
交通費・宿泊費 中山農村歌舞伎	11	2,380	24,110	
収穫祭費用	-	-	17,701	
合計			86,221	